

#### ◇学校集会(11月29日<授業の充実>)

皆さんは学校生活のほとんどを授業で過ごしています。したがって、1時間1時間の授業を充実させていくことはとても大切です。

授業を充実するには、どうすればよいのでしょうか。立派な先生を西中に集めても無理だろうと思います。アメリカの高校に留学した16歳になる女子生徒が書いた本を読みました。この高校では、ケネディ大統領も学んだということなので、アメリカでも名が知られた高校なのかもしれませんが、5時間の授業があれば、家で5時間の勉強をしないとついていけないのだそうです。皆さんはどうでしょう。そんなに勉強しますか。

アメリカの生徒は、授業中積極的に質問をします。また、教室移動も素早いとのこと。この本を読んでいて、授業は、教師と生徒で創り上げるものと感じましたが、皆さんには、授業中どんどん質問をするなどして、先生と一緒にいい授業を創り上げてほしいと思います。

※授業を充実させるために、教師の力量はとても重要なことですが、生徒がその気になっていることも重要です。生徒をその気にさせるのも教師の力量といえそうですが、何の目的もなく学校に来る生徒を、その気にさせるのは容易ではありません。私はどんなに経験の浅い教師でも、しっかりと充実した授業が行われていく学校が、本当の学校と考えています。教え方が上手でなかったとしても、それを補う程の若さや熱意は、生徒にとって不利になることはありません。授業への受け身の姿勢が、16歳の留學生が知らせるアメリカの学校のように、積極的になったら生徒はどれほど伸びていくことでしょうか。

#### ◇高齢化社会

年金や医療費など、高齢化社会がもたらす公的負担の増大、そして、それを支える就労者世代の負担を憂えるような報道には、高齢者は社会のお荷物と言っているようで、情けない気持ちにさせられます。家族や社会に貢献してきた高齢者への感謝の心を忘れた冷たい姿勢に、明日は我が身と考えたら、情けないというより、むしろ恐ろしさを感じるのではないかと思います。

高齢者があふれる世の中かもしれませんが、元気いっぱい、世の中の役に立ちたいと考えている人はたくさんいます。職員減のため、教育活動に制限を加えなければならない状況にある学校にとっては、お力を拝借する絶好の機会が訪れているように思います。

部活動の指導者不足に悩まされている学校は、しっかりとした理念をもつ高齢者に、指導陣として加わってもらったなら部活動を発展させることができます。廃部や休部にしなくても済みます。PTA活動に思うように出られない若夫婦に代わって、祖父母が参加できるようにしたなら、PTA活動を一層盛んにすることができます。本校卒業生が、先生に気楽に質問できる場所があればいい、と言っていたとのことですが、気楽に質問できる先生になってくれる方、また、安全対策上の諸々の取り組みへの協力をお願いしたなら、快く引き受けてくれる方は多いはず。です。

高齢者(おじいちゃん)が同居している家庭で育った子どもは、穏やかに育つことが多いようです。また、子どもが帰宅した時、誰もいないという状況もなくなります。高齢者同居手当があってもいいくらいに思っています。高齢化社会は憂えることではなく、むしろ喜ぶべきことではないでしょうか。

明けましておめでとうございます。新年は毎年やって来るのに、新年になると気分が改まるのですからありがたいです。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ◇終業式(12月24日<「家族を大切にする」「教師を敬う」>)

相変わらずびっくりするような事件が頻発しています。私は、どうしたらこの国を変えることができるのかと考え続けています。そして今は、どうしたらよいか少し見えるようになりました。日本人誰もが、それぞれの立場で、それぞれのやるべきことがあるということが分かりました。当然、皆さんにもあります。今日は二つのことを話します。

一つ目は、家族を大切にすることです。皆さんは、家族全員の誕生日を覚えていますか。家族の言うことをきちんと聞きますか。一緒に食事をするよう努めていますか。後で食べると部屋にこもっているようなことはありませんか。家族団らんの時間をもつようになっていますか。家族を楽しませるような話をしたりしますか。どうでしょうか。家族の言うことを聞き、家族を大切にすることはとても大切です。

二つ目は、教師を敬うことです。日本では教師を敬わない人が増えてしまったようです。教師の言うことは絶対に聞くべきと考えている日本の生徒の割合は、中国、韓国、アメリカに比べ圧倒的に少ない。逆に、教師の言うことを聞かなくてもかまわない、と考える生徒の割合は、圧倒的に多く世界の笑いものと思います。教師の言うことを聞き、敬うことはとても大切です。家族を大切にすること、教師を敬うことは、皆さんのためにも世の中のためにもなります。

※大切にされるような資格があるか、敬われるような資格があるか、を問うよりも、家族を大切にしているか、教師を敬っているか、を問うべきでしょう。大切にしないから大切に思えない、敬わないから敬われるような教師が育たない、という面もあるように思うからです。個々の問題(それぞれの家族や教師)に目を向けることも大切ですが、この国全体の風潮を改める、との観点に立って考えることも大切でしょう。

世界20カ国の青少年の調査が紹介(3月22日産経)されていました。「親を尊敬しているか」の問いに、「はい」と答えた割合が、日本は25%(平均は83%)だった。「教師を尊敬しているか」の問いには、21%(韓国、アメリカ、EU(欧州連合)は80%以上)だった。19位の国でも70%ということですから、日本は驚異的な最下位です。

#### ◇家庭の約束事

市には市民憲章、学校には校則(心得)、道場には道場訓があるものです。族などと呼ばれる者にも掟おきてというものがあるのに、家庭はどうなのでしょう。家庭の約束事(家訓けきん)が話題にされることはほとんどないように思います。

新規採用で勤務した中学校長の父親は、「若き時惜しんで出さぬ汗水は、老いて涙となって出てくる」を信条とし、一枚板に「鶏鳴に起きざれば夕暮れに悔いあり」の文言を書家に頼んで揮毫し、床の間に掲げて家訓にされたとのことだった。

家庭の崩壊が危惧される今日の状況を考えると、「他人に迷惑をかけない」、「物を粗末にしない」、「嘘をつかない(隣人の嘘)」、「卑怯なことをしない」、「約束を守る」、「年寄を敬う」など、家庭の約束事が話題にされなければならないような状況になってきたように思います。約束事がなければ、家族みんなで考えることも必要な時代なのかもしれません。